

たじみん昼話 94

ちりも積もれば、表現力が身につく

掃除が終了すると、桔梗の掃除区域の担当生徒は3分プレゼーションを行う。主目的は伝える力を鍛えることだ。聞いた人がテーマを理解し、関心や疑問を持つことができたなら及第点で、行動させるレベルまできたら満点だ。

4月21日までに9回行った。発表テーマは、「なぜ、このプレゼンテーションをするのか」「掃除をする意味」「学習の仕方」「睡眠時間について」と様々だ。つかみも、「クイズのように考えさせる」「問いかけ」「訴える形式」等と、毎回趣向を凝らしており、素晴らしいプレゼンテーションが展開されている。

プレゼンのルールは、「聞き手が理解できるように伝える」ことだ。大学入試に使うには少々要素が足りないが、基本これさえ守れば表現方法は自由だ。

桔梗は、中学校説明会の冒頭でクイズをやる。問題はそのときの雰囲気を変えるが、基本ここから始める。これは、最初に盛り上げて聞き手の参加意識を高めやすいからだ。聞き手の興味や関心を掴めば、後は通常の説明を行い、適度にアクセント場面を挿入すれば、聞き手は最後まで集中して聞いてくれるからだ。

つかむために、プレゼン冒頭で「いきなり」何かをするという意外性効果を狙った手法もある。聞き手の心をプレゼンに引き込んだら、説明の上手い下手はカバーできる。話すのが苦手な人は、敢えて「話さない」という技も効果的だ。

プレゼンテーションは、スライド提示による説明ではない。ダメなパターンで聞き手の興味を引くことができないプレゼンをやりがちな人に多い思考だ。

上手いプレゼンのコツは、自由な発想で表現する方法を考えぬくことだ。結果として、それが奇抜な手法になっても、自身で編み出した伝え方ならば、聞き手の共感や理解を得られる、説得力に富んだプレゼンになるだろう。

いよいよ大学入試がスタートした。3年次生の諸君、総合型選抜を恐れる必要はない。この日々の練習が、多治高生に必ず勝利をもたらすからだ。